

# blog

～ 拡大する blog network ～

昌山 智, 谷口 義樹

Satoru Masayama, Yoshiki Taniguchi

## 1 はじめに

インターネットを利用したコミュニケーションとして、メール、掲示板、チャットなどの多様な手段が広まり、従来の情報の流通の仕方や人々のコミュニケーション手段を変化させてきた。近年、さらに新しいコミュニケーション手段として個人ウェブサイトのコンテンツである「blog」が注目されつつある。

日本では、blog という言葉はあまり知られていないのが現状であるが、米国ではすでに blog という言葉が一般紙でも取り上げられるほどに定着している。個人の管理する blog サイトがマスコミの報道に影響を与えることもある。米国で急速に blog が広まった理由として、Movable Type などの初心者でも簡単に blog サイトを作成することができるツールが登場したことや、そのツールには blog コミュニティや blog サイト同士を双方向につなぐことのできる機能があり、そういった blog の話題が「口コミ」で急速に広まったことなどが挙げられる。本発表では、blog の実体および展望について述べる。

## 2 blog について

### 2.1 blog とは

blog とは、「Web に残す log (Weblog)」の略で、一般的には Web 上のニュースを引用したり他サイトへのリンク、それに関するコメントが日々更新されるようなサイトの総称である。

blog コンテンツには、一定層の読者を想定して体系化されたものはほとんど存在せず、著者が自身の興味の赴くままにスモールコンテンツ<sup>1</sup>を並べるといった形態が多い。コンテンツの内容は多種多様であり、日記から批評、他サイトの紹介など各 blog サイトごとに大きく異なる。中でも、他サイトのコンテンツ紹介とそれに関するコメントは最も量が多く、最も頻繁に更新されているコンテンツである。紹介はハイパーリンクやコンテンツ自体の引用によってなされることが多く、その対象は通常の Web サイトやニュースサイト、他の blog サイトまでと多岐に渡る。

### 2.2 blog の目的

従来の Web ページの作成者の多くは、サイトを開設しても発信する内容がなく自分を表現することができな

<sup>1</sup>頻繁に更新される短いコンテンツのこと

いといった問題点を抱えていた。そこで blog という新しいコミュニケーション手段を用いて、ニュースサイトという形で自分の持っている情報や知識などを提供し、日記という形で自分という人間を知ってもらい、そうした情報提供や自己表現を通してコミュニケーションを図ることを目的とした。

### 2.3 blog の特徴

blog の特徴には、次のようなことが挙げられる。

- コンテンツが時系列で並べられていることで、情報を新鮮に保つことができる。
- プログラミングなどの特別な知識を必要としないため、更新作業時間を短縮することができる。
- blog サイト管理者の観点で独自に Web 上のコンテンツを再編集できる。
- 情報の受け手であった人々を、再編集という手順を通して情報の送り手に変えることができる。

## 3 blog の実体

blog 作成ツールには、パーソナルな CMS (コンテンツ管理システム) が導入されている。CMS とは、プログラミングや ftp 等を用いたファイルのアップロードなどの特別な知識を持たない初心者でも更新作業が容易にできる支援システムのことである。代表的な blog 作成ツールとして Blogger, Movable Type, Radio UserLand などがある。

### 3.1 blog と RSS

RSS (RDF Site Summary) とは、Web サイトの概要をメタデータとして簡潔に記述する XML フォーマットのことであり、RSS の基本構造を Fig. 1 に示す。



Fig. 1 RSS の基本構造

channel 要素には、タイトルや簡潔な記述、ページの存在する URL、ページの目次などのメタデータが記述されている。また、item 要素では、item タグで囲まれた内部の一つ一つが記事内容のメタデータとなっている。このように RSS を提供している注目サイトを購読リストに登録しておくことで、登録したサイトを検索エンジンプログラムである「スパイダー」が巡回し、自動的にサマリーを取得することができる。

先に紹介した Movable Type には、この RSS を自動的に作成する機能がある。この機能を利用することで、簡単に Web サイトの概要や見出し、更新情報などを取得することが可能である。最終的にブラウザに表示する際には、HTML 形式に変換することによって公開される。こうすることで、独自のポータルサイトを作成することができる。

### 3.2 TrackBack 機能

通常、あるサイトが他サイトのコンテンツを参照し引用する場合、片方向のリンクにしかならない。しかし、TrackBack 機能によりサイト間を双方向にリンクすることができる。TrackBack 機能の仕組みを Fig. 2 に示す。

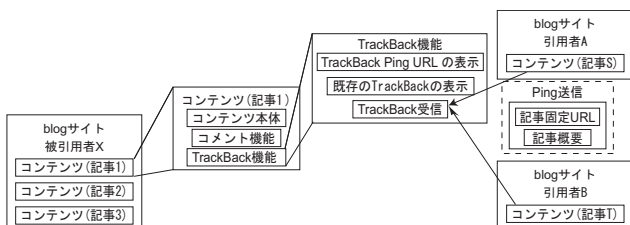


Fig. 2 TrackBack 機能の仕組み

まず、引用者 A、B が被引用者 X に TrackBack ping を送信することにより「A、B は X にリンクしている」というメッセージを通知し、併せて引用したコンテンツの概要も通知する。TrackBack ping の送受信は、HTTP プロトコルを使って行われており、要求メソッドには POST と GET がある。A、B が X に TrackBack ping 送信の場合、HTTP POST を送信することで実現される。X が A、B から TrackBack ping を受信する場合は、HTTP GET を送信する。こうすることで、X は A、B が自分のコンテンツをリンクしたことがわかり、A X から X A のつながり、B X から X B へのつながりができ、その結果、A B、B A へのつながりができる。このように、TrackBack 機能は blog サイト間をつなぐコミュニケーションツールとなり、blog network が構築される。このように blog network が広がり、RSS を取り込むことによって新鮮な情報を共有ことができ、良質な「知」の形式が推進されていくにつれ個人がダイナミックなサイトを作成できると考えられる。

## 4 今後の展望

### 4.1 blog と google の連携

google 社が blog 作成ツール「Blogger」を提供する Pyra Lab 社を買収したことで、来年の今頃には、検索システムに大きな変化が見られるであろう。

google 社は、独自システムである「ページランク」を開発したことで検索エンジンで突出した存在になった。ページランクとは、サイトの重要度をリンクにより判定するシステムである。このシステムと blog を用いることで検索システムを変えることができる。blog は、コンテンツが時系列で並べられていることで情報を新鮮に保つことができるため、スピーディーにタイミングよく情報が掲載される宝庫になる。それだけでなく、多数の blog は RSS 形式で読み込むことができ、スパイダーによる解析とインデックス作成が簡単に行える。blog から得られる RSS データにある豊富なメタデータを活用し、新鮮かつ重要度の高いサイトを容易に検索できるようになるであろう。

### 4.2 blog の今後の普及

blog サイトは、難しい知識を必要とせずコンテンツを頻りに更新することができ手軽に個性あふれるサイトを作成できることから、利用者が増加してきた。その「手軽さ」が、今後どのような形で blog の普及に影響をあたえるのかを予想する。

blog サイトの更新は、今や電話をかけるのと同じくらい簡単に行うことができるが、更なる「手軽さ」を要求されるであろう。その対象は、カメラ付き携帯電話やカメラ付き PDA などの Mobile 機器に向けられる。Mobile 機器を利用した Moblog の最大の特徴は手軽さにあり、撮影 写真を Mail に添付 Moblog のアドレス入力 タイトル、本文の作成 送信という一連の動作を素早くさせることで、リアルタイム性、文字入力の簡単さ、Upload 操作のシンプルさをよりいっそう追求できると考えられる。日本で携帯電話などのモバイル端末が爆発的に普及したことを考えると、Moblog に対応した blog 作成ツールが開発されることで、Moblog 利用者が急増することが考えられる。この Moblog が、今後の blog の普及にとって大きな役割を果たすこととなるであろう。

### 参考文献

- 1) Weblog 研究, <http://www4.kiwi-us.com/kogure/article/weblog.html>
- 2) INTERNET MAGAZINE, 2003.2, pp.104 ~ 121
- 3) 大向 一輝, セマンティックウェブ技術を用いたスモールコンテンツの再編集・共有プラットフォーム, pp.1 ~ 2
- 4) TrackBack 技術仕様書, <http://lowlife.jp/translation/mttrackback.html>